繪本直指寶

五

750
.12

繪本直指寶巻之五目録

香山九老之圖

白樂天　胡果　吉旼
張渾　劉嘉　鄭據
盧真　狄兼謨　盧貞

嵩山四皓之圖

綺里季　東園公
甪里先生　夏黄公

左慈

大眞王夫人

玉莚

金樓

列子

鄭太尉

香山九老の會

唐の白居易字ハ樂天玄宗治世乃比其名誉世ニ
高し年老て後致仕し香山に隠居し多倶に
老ぞ家人を豊し我に齋しき賢友八人を集め會
に名高年ふして仕官せず唯琴詩酒に心を寄にし
て天年ヲ樂しめり

白樂天 七十四　胡杲 八十九　吉皎 八十七　張渾 七十七
劉嘉 八十七　鄭據 八十五　盧眞 八十三　狄兼謨
盧貞

狄兼謨盧貞ハ卅二人とも七十に及ばざれ九老ノあつまりに加はるといへ
ども列ニハなけれど後人古跡を慕ひ畫いて九老の圖となす
白氏文集巻百十七に九老の記事あり

吉敗
張渾

胡果

白楽天

劉

鄭據

盧貞
狄孟漢

商山の四皓
綺里季
東園公

甪里先生
夏黄公

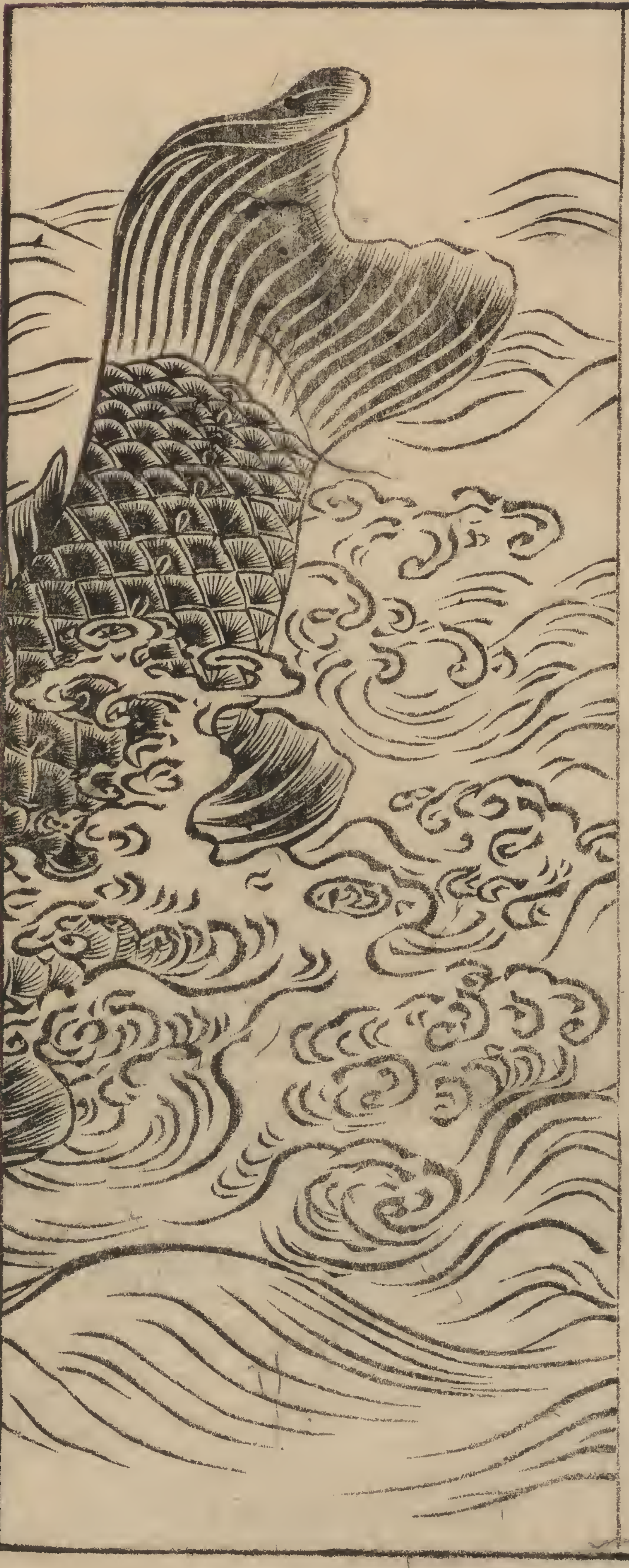
左慈

後漢の末に左慈字ハ元放といふ者あり天文地
理陰陽乃学に通達せし然て後漢の代絶よ乱
れん事を早く暁り我ながら危く才勝きをもつ
て命を失ふ当世の栄耀ハ頼むに足らずとて
遂に天柱山に入りて仙術をまなぶ事久し魏乃
曹操すでに及びて仙の道ハ問ふ左慈が云凡そ
仙道を学ばんと思ふならば心を清く静に養ふべしと云が
如く平生権威をもつて人を最もさせ我勢を強く
せんと思ふ心ありては成就しがたしとこれ詞を悔
きれば曹操怒りて殺さんと思ひ毒酒を酌ませて
酒盃に飲べしと云左慈早く此金の簪を抜

て受たる酒を推分々残を盃上に分て一方は
自ら飲ほし残るをすゝめて曹操に進む曹操恐れて
飲ざれば左慈申けるは我飲べしとて其を飲けり
其盃を空へ抛あげれバ殿の棟木に飛移りて
落るやうにて落もせず座中目を驚てこれを仰ぎ
見る間よ却て其盃の中に入ぬ忽ち見えず盃ハ落し曹操
劒を抜て斬んとすれば倏ちに失ぬされより曹操が
ますます左慈を捕んとしけるが走て群る羊乃中
に入ぬれども件の羊をことごとく殺して見るに
跡をかくすれば化せる羊本のごとく活てた慈ハ悠々
として行けるを忙して遂に其前にまみえず
付ず後にも遂に是を見そめしくなりけるとぞ

太真王夫人
西王母乃仕女
一絃乃琴を弾く
白龍に乗て飛行を

玉延九峯より仙術を
好みこゝに入て道を行周の
武帝にめされて仕ふ欲
久しくいつゝをさい山へ
帰るには豹虎来り常に
随ふにありて玉延をさる
渡を隋の文帝みて
崇敬あり仙都観達延を
ひらきこれに住しむ



琴高　八仙の内

あるは門人に云我江ふ入て龍の子をとり出し大江より庭へもどるべくす
てまた鯉の背にまたがりて水面に浮出門人に問答して再び水中に入
後は来て門すと飲食をともにしこれよりみな中に入てりつり
蚕経　鯉は七伝の牙一種に増ひ多き故より始め江湖を経りて龍の姿あり金身
令色鱗甲旁に三十六枚連一鱗ふ一点の星ありて尾に至る天地三十六度の数を表
云寿令て日は七十二候をかたどりてそ鱗虫三百六十種の長とし

列子

鄭の人なり名ハ禦寇道を関尹子に学ぶ九年にして能風に御し
て行隠れて居ること鄭国四十年知る者なし書を著して世に行る所

[illegible]小鄰去鄰
[illegible]被人知

鄭太尉

鄭弘字ハ巨君山陰の人なり其居処の前に若耶渓といふ大なる渓川あり川の北に白鶴山といふ山あり弘常に爰にて樵りひよ入て薪を担て世渡りと為す素より此川口渡るにも風はげしく浪甚しくして已ひ舟筏限れし或時山にて矢のごとき物を拾ひ得たり暫くありて異き人来り我ハ其矢の主なり返しくれよといへバ鄭弘之れ出してあたへせば悦で云我は此山の神之汝のぞむ事ありや我叶へあたえさせん弘が云某此川を渡るに風定まらずして常に是を憂ふ願くは望む所は異人の云それより易き事なり朝は南風を吹せて又夕ハ北風を吹せて帰らしめんといひて見れば渓風たちまち吹起り弘が舟を南の岸に吹付けてほどなく見えざれば異人ハ再びことして之所を知らざりけり其翌より朝は南風吹夕にハ北風吹て渡るに甚便を得たり後朝に仕へて大尉といふ官にまで昇りしとなり